

授業科目名	教育方法・技術論		開講年次	2	単位数	2
担当形態	単独	教員の免許状取得のための必修科目				
科目区分	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
各科目に含めることが必要な事項	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）					
サブタイトル	教育方法の変遷と新しい教育技術		担当者	小松 伸之		
授業概要	<p>【実務（中学・高等学校教諭）経験を活かした授業】 中学校及び高等学校における教育経験をもとに、学校現場で求められる基礎的な実践的指導力の育成を図る。</p> <p>【概要】 前半では、「学習内容をいかに編成し、学習者と学習対象をいかに結びつけるか」という教育の根幹をなす課題に対し、いかなる教育方法が編み出されてきたのか歴史の変遷を追うとともに、カリキュラム論及び授業論における位置づけを学ぶことで、今日の学校教育のあり方について理解を深めていく。後半では、学校現場で取り扱うことになる教育機器（デジタル教科書、電子黒板を含む）についての概要と基本的な活用方法について取り上げ、教員として求められるICT活用能力の基礎的素養を育む。</p> <p>【到達目標】 ○教育方法の歴史の変遷や現代的な意義と課題について理解することができる。 ○今日の学校現場で必要とされるICT活用能力や指導法の基礎的素養を身につけ、パワーポイントを活用した発表活動を行うことができる。</p>					
履修条件	特になし					
教科書・参考書	<p>【教科書】 適宜、資料を配布する。</p> <p>【参考書】 田中耕治ほか『新しい時代の教育方法』有斐閣 原田恵理子・森山賢一編著『ICTを活用した新しい学校教育』北樹出版 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』、『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』、『同 公民編』、『同 情報編』</p>					
授業回数	授業内容					
1	なぜ教育の方法を考えるのか？ 予習：教育経験の振り返り		復習：授業内容についての復習			
2	教育方法史①（教授法の成立と展開） 予習：教育原理の学びの振り返り		復習：古代・中世教育史についての復習			
3	教育方法史②（近代の教育方法） 予習：教育原理の学びの振り返り		復習：近代教育史についての復習			
4	教育方法史③（現代の教育方法と学校現場の実態） 予習：教育原理の学びの振り返り		復習：現代教育史についての復習			
5	カリキュラム論①（カリキュラム編成の原理） 予習：配布プリントの読解		復習：カリキュラム論についての復習			
6	カリキュラム論②（学校現場におけるカリキュラム編成の実態、教員に求められるカリキュラムマネジメント能力） 予習：出身校のカリキュラムの調査		復習：カリキュラム論についての復習			
7	授業論①（授業の構成） 予習：配布プリントの読解		復習：授業論についての復習			
8	授業論②（指導過程と評価） 予習：授業の組み立て方の確認		復習：授業論についての復習			
9	小括（教育方法のまとめ）、学習到達度確認試験 予習：教育方法に関する総復習		復習：教育方法について理解が不十分な点についての復習			
10	教育技術とは 予習：教育経験の振り返り		復習：教育技術についての復習			
11	学習指導案から読み取る教育技術 予習：学習指導案の読解		復習：学習指導案の作成・提出			
12	視聴覚教材の事例と活用 予習：視聴覚教材の事例調査		復習：教育技術についての復習			
13	教員に求められるICT活用能力と指導法（デジタル教科書、電子黒板を含む） 予習：教育機器・器具についての調査		復習：教育技術についての復習			
14	パワーポイントによるプレゼンテーション① 予習：プレゼンテーション資料の作成		復習：プレゼンテーション資料の修正			
15	パワーポイントによるプレゼンテーション②、総括 予習：プレゼンテーション資料の作成		復習：プレゼンテーション資料の修正			
評価方法	試験（35%）、プレゼンテーション（35%）、学習指導案（15%）ワークシート（15%） ※出席は評価の前提条件となる。また、受講者には授業への積極的な参加を求める。					
評価基準	授業内容についてよく理解して優れた発表を行うことができた者には「S」または「A」を与える。内容理解や発表内容・方法に不十分な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とし、取り組む姿勢が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。全く出席しないなど判定不能な者は「F」とする。					
その他	特になし					